

小学校 外国語活動 部会

部会長	校長	森	隆子
研究員	主幹教諭	七俵	尚美
実践者	教諭	岸野	未来

1 研究主題

英語を積極的に用いてコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～外国語活動における、主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

現在学校に学ぶ子どもたちが、社会で活躍する頃には、多文化、多言語、他民族の人たちと協調したり競争したりするようになり、社会的にも職業的にも外国語を用いてコミュニケーションを図る機会が確実に増える。さらに英語を用いて自らの考えや意見を相手や状況に応じて発信する力も身に付けておくことが必要となってくる。英語をはじめとする外国語で多様な人々とコミュニケーションを図る能力は、生涯にわたって必要となることが予想される。以上のことから、国際共通語である英語によるコミュニケーション能力の向上は不可欠である。

このような中、平成29年3月に告示された新学習指導要領で、小学校英語は教科「外国語」となった。これまでの外国語教育の成果を踏まえながら、小学校・中学校・高等学校が連携し、一貫した外国語教育を推進することができるようにするためである。また、積極的に英語を用いてコミュニケーションをしようとする態度や他者とのよりよい人間関係を作ろうとする態度を育成するために、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を用いてコミュニケーションを図る言語活動がいっそう重視されるようになった。

以上のことから、本研究がめざす『英語を積極的に用いてコミュニケーションを図ろうとする児童』を育成していくことは、大変意義深いと考える。

(2) 小学校外国語教育の動向から

文部科学省において外国語教育について本格的に導入が検討され始めたのは1990年代に入ってからである。平成10年告示の学習指導要領により、「総合的な学習の時間」に、「国際理解に関する学習の一環としての外国語会話等」を実施することができるようになったが、地域によっても学校によっても内容や方法はさまざまであった。その結果、教育の機会均等の確保や中学校との円滑な接続等の観点から課題が指摘されるようになり、共通の指導内容を設定することの必要性が強く求められるようになった。

平成20年3月告示の学習指導要領により、第5学年・第6学年で週一時間の外国語活動が新設され必修化された。このことにより児童の学習意欲の喚起や、外国語教育に対する積極性の向上といった大きな成果が認められ、中学校における教科としての外国語学習開始前に、外国語の音声によるコミュニケーションを体験しておくこと

に大きな意義があると確認された。一方、音声中心で学んだことにより、音声から文字学習への移行が円滑になされていない等の課題がみられた。

以上のことから、平成29年3月告示の小学校新学習指導要領では、中学年に外国語活動（年間35時間程度）、高学年に外国語科（年間70時間程度）が導入されることとなった。中学年の外国語活動で「聞くこと」「話すこと」を中心に外国語に慣れ親しませ、外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年では「読むこと」「書くこと」を加えて総合的・系統的に扱う。このことにより、中学校への円滑な接続を図ることとしている。

3 主題・副主題の意味

(1) 「英語を積極的に用いてコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」とは

外国語活動のさまざまな場面において、それまでの活動の中で体験を通じて慣れ親しんだ英語の知識や技能を積極的に用い、思考力・判断力・表現力を働かせ、自ら進んで相手に話しかけたり、尋ねたりしようとする児童を育てることである。

(2) 「外国語活動における、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」とは

① 外国語教育における「主体的な学び」とは、

ア 外国語を学んだり、外国語を用いてコミュニケーションを行ったりすることに興味・関心をもつこと

イ 外国語によるコミュニケーションを通して社会・世界と関わり、学んだことを生かそうとすること

ウ コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定したり理解したりして見通しをもって粘り強く取り組むこと

エ 自らのコミュニケーションの在り方を振り返り次の学習につなげることである。

② 外国語教育における「対話的な学び」とは、

ア 他者を尊重して情報や考えなどを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりすること

イ 聞いたり話したりすることを中心として、書かれたものを読んで社会や世界の様々なことについて知ったり、他者の考え方を学んだり、自分の考えを深めたりすることである。

③ 外国語教育における「深い学び」とは、

ア コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて考えたり表現したりする中で、言語の働きや役割に関する理解や外国語の音声、語彙・表現、文法の知識がさらに深まり、それらの知識を実際のコミュニケーションで運用する技能がより確実なものとなるようにすること

イ 深い理解と確実な技能に支えられて、外国語教育において育まれる「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現する力が活用されるようにすることである。

これらの「主体的・対話的で深い学び」が実現した授業づくりを行うことで、

外国語教育における学習が、児童一人一人の資質・能力の育成や、生涯にわたる学びにつながる意味ある学びになると考える。

4 研究の目標

第4学年の外国語活動において、主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくりを通して、英語を積極的に用いてコミュニケーションを図ろうとする児童の育成をめざす。

5 研究仮説

次のような着眼で、主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくりを行えば、児童は、英語を積極的に用いてコミュニケーションを図ろうとするようになるであろう。

【着眼1】 聞く必然性がある場の設定

- 児童の興味のある話題と授業内容をリンクさせ、聞く必然性のある「Small Talk」を作り、学びに向かう意欲を引き出し、コミュニケーション活動を行う。

【着眼2】 聞く・話す必然性がある場の設定

- ゲーム方式で、ミッシングゲームやキーワードゲームを行ったり、児童の好きな英語の歌のテンポを替えて歌ったりしながら、積極的に学習を行う姿勢を引き出す。

【着眼3】 振り返りシートの活用

- 毎時間、学習して分かったこと・できたこと・できなかったことなどを振り返りシートに書くことで、自分なりの次時のめあてやがんばることなどが分かり、毎時間の学習に見通しをもたせる。

6 研究の計画（授業の計画）

(1) 単元名 Alphabet (Unit6)

(2) 単元目標

- ・身の回りには活字体の文字で表されているものがあることに気づき、活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。(知識及び技能)
- ・身の回りにあるアルファベットの文字クイズを出したり答えたりする。(言語活動に関する事項)
- ・相手に配慮しながら、アルファベットの文字について伝え合おうとする。(思考力、判断力、表現力等)

(3) 言語材料

○表現

Look. What' s this? Hint, please. How many letters? I have ~ .

Do you have ~? Yes, I do. That' s right. Sorry. Try again.

小文字(a~z)

○語彙

Letter, try, again, bookstore, juice, news, school, station, taxi, telephone,

(4) 関連する学習指導要領における領域別目標

(1) 聞くこと	ウ 文字の読み方が発音されているのを聞いて、活字体で書かれた文字と結びつける活動。
(3) 話すこと (やり取り)	ウ 自分や相手の好み及び欲しいものなどについて、簡単な質問をしたり質問に答えたりする活動。

(5) 単元指導計画 (4 時間)

時	目標 (◆) と主な活動 (【】、○)	◎評価 (方法)
1	◆看板や標示を見て、アルファベットの大文字や小文字に慣れ親しむことができる。	
	○Small Talk: 自己紹介 ○歌「ABC song」 【Let' s chant】 Alphabet chant 【Let' s play】 アルファベット探しをしよう 【Let' s Watch and think】 ・映像を見て、アルファベットの小文字について知る。	◎身の回りにはたくさん のアルファベットがある ことに気づいている。
2	◆アルファベット (小文字) の形や読み方に気をつけて、尋ねたり答えたりすることができる。	
本 時	○Small Talk: 看板や名前のスペル ○歌「ABC song」 【Let' s chant】 Alphabet chant ○ミッシングゲーム ・黒板に貼られた小文字を覚え、なくなったカードの文字をあてる。 【Let' s Listen】 どの看板や標示か聞いて、番号を書く。 ○小文字ビンゴ ・友達にインタビューをしながら、ビンゴを行う。	◎音声を聞き、小文字を 聞き取っている。(英語 の本) ◎自分のほしい小文字を 友達に尋ねたり答えたり している。(行動観察・ 振り返りシート)
3	◆好きな看板や標示を尋ねる活動を通して、アルファベットの小文字を尋ねたり聞いたりすることができる。	
	○Small Talk: 看板のスペル ○歌「ABC song」 【Let' s chant】 Alphabet chant ○ミッシングゲーム	◎自分のほしい小文字を 友達に尋ねたり答えたり している。(行動観察・ 振り返りシート)

	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板に貼られた小文字を覚え、なくなったカードの文字をあてる。 <p>【Activity1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな看板を選び、ペアになって文字について尋ね合い、相手の看板をあてる。 	
4	<p>◆好きな色を尋ねる活動を通して、アルファベットの小文字を尋ねたり聞いたりすることができる。</p>	
	<p>○Small Talk :好きな色</p> <p>○歌「ABC song」</p> <p>【Let' s chant】 Alphabet chant</p> <p>【Let' s play】 おはじきゲーム</p> <p>【Activity2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな色を1つ選んで、その色の頭文字について友達と尋ね合い、相手の選んだ色をあてる。 	<p>◎自分のほしい小文字を友達に尋ねたり答えたりしている。(行動観察・振り返りシート)</p>

7 指導の実際

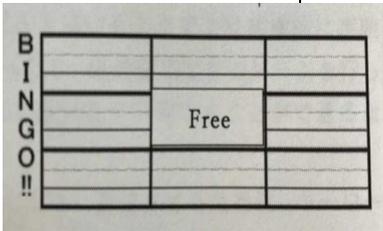
(1) 本時の主眼

アルファベット（小文字）のビンゴ活動を通して、小文字の読み方に気をつけながら、友達に尋ねたり友達の質問に答えたりすることができる。

(2) 準備物 教科書、デジタル教材、振り返りシート、ビンゴの紙

(3) 本時の展開（2/4時間）

時間	児童の活動	指導者の活動と使用英語例	準備物
2分	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体調や日にち、曜日、天気 <p>を尋ねる。</p> <p>Hello,</p> <p>How are you? I' m</p> <p>How the weather?</p> <p>What day is it today?</p> <p>What the date today?</p>	曜日、日付 天気カード
3分	<p>○ Small Talk : 看板や名前のスペル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の話聞き、質問に答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットの小文字のイメージを持てるよう、同じ観点で話をする。 	看板や名前 を書いたもの
8分	<p>○歌「ABC song」</p> <p>○アルファベットの小文字の読み方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットカードを指さしながら、名前と文 	アルファベット（小文

	<p>を練習する。</p> <p>○本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>アルファベット (小文字) の名前を尋ねたり答えたりしよう。</p> </div>	<p>字の形を一致させながら、声に出してくり返し練習させる。</p>	<p>字) カード</p>
10分	<p>○ミッシングゲーム</p> <p>【Let' s Listen】 P. 24 どの看板や標示かを聞いて、番号を□に書こう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットカードを見ながら、発音の練習をさせる。 ・机間指導をして一緒に文字を探す。 	<p>アルファベット (小文字) カード</p>
15分	<p>【Activity】 小文字ビンゴ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな小文字を8個選ぶ。 ・友達に「Do you have a (a)?」と尋ね、「Yes, I do.」と答えたら自分のビンゴシートに○をつける。 	 <p>◎自分のほしい小文字を友達に尋ねたり、答えたりしている。(行動観察、振り返りシート)</p>	<p>ビンゴシート</p>
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動を振り返り、シートに記入をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時を振り返り、友達の良かったところ、自分ができるようになったところを発表し、次の活動への意欲化を図る。 	<p>振り返りシート</p>
2分	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の活動を告げる。 That' s all for today. Thank you See you. 	

8 研究のまとめ

【着眼1】聞く必然性がある場の設定

- 導入段階で、アルファベットの小文字に興味をもたせるために、名前スペルや看

板のスペルを提示しながら「Small Talk」を行った。

【写真1】本時の「Let's Listen」とリンクさせるための「Small Talk」であったので、小文字の読み方がどのように発音されるのかを聞き、どの文字であるのかを探す活動に結びつけることができた。また、児童の興味のある話題を提供することで、学びに向かう意欲を引き出すことができ、質問をしながらコミュニケーション活動を行うこともできた。



【写真1】

以上のことから、「Small Talk」と学習内容をリンクさせ、さらに児童の興味のある内容を取り入れることは、学びに向かう意欲を引き出すとともに、積極的にコミュニケーションを行う姿につながり、有効であったと考える。

【着眼2】聞く・話す必然性がある場の設定

- ミッシングゲームやキーワードゲーム、ABCソングでたくさんの英語を聞かせる時間（インプットの時間）を作った。スピードを上げていくことで、より集中して言葉を聞き取ろうとする姿が見られた。また、本時のビンゴ活動では、友達にインタビューをしなければならないので、必然的に覚える必要もあった。

【写真2】

初めての単語と出会うときは、ゲーム方式を用いることでより積極的に英語を使うことができるようになってきた。歌を歌ったり、短時間でできるゲームを行ったりすることによって、英語を使うことに抵抗なく学習することができるようになった児童もいる。



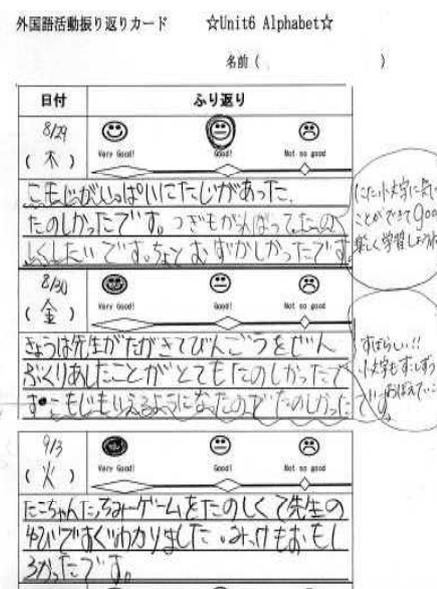
【写真2】

このようなことから、アルファベットの小文字に着目させるために、ミッシングゲームやキーワードゲーム、ABCソングは積極的に学習を行う姿勢を引き出すために、大変有効であった。

【着眼3】振り返りシートの活用

- 児童の振り返りシートを読むと、「小文字で似ている字があった。」「友達にインタビューをすることができた。」「小文字がすらすら読めるようになった。」などの感想が多かった。前時の振り返りシートで、「難しかった。」「次は、すらすら言えるようになりたい。」など書いていた児童も、「インタビューすることができて嬉しかった。」と自分なりのめあてをもって学習を行うことができたようだった。【資料1】

以上のことから、毎時間、振り返りシートを書かせ次時のめあてをもたせることは、見通しをもって学習に取り組むことができるので、有効であると考えられる。



【資料1】

9 成果と今後の課題

【成果】

- ゲーム的要素を含んだインタビュー活動をはじめとする体験的な活動を取り入れることで、相手に伝えるためのフレーズを繰り返し聞いたり、話したりして英語を積極的に用いる姿が見られ、コミュニケーションに対する意識が高まった。
- 授業の初めに必ず言語活動を取り入れることで、本時の活動内容について、意欲の向上が見られ、見通しをもつことができた。

【課題】

- 単元の最終活動を明確に設定し、達成するための単元構成の工夫を行う。
- 本時で学んだことや気づき、工夫、次時に向けてのがんばりなど観点の整理を行うとともに、育成する3つの資質・能力をはかるふり返りの導入を検討する必要がある。

◎ 参考文献

「小学校学習指導要領」(H29)	文部科学省
「小学校学習指導要領解説 外国語活動編」(H29)	文部科学省
「小学校学習指導要領解説 外国語編」(H29)	文部科学省
「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック・基本編」	文部科学省
「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック・理論編」	文部科学省
「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック・研修指導者編」	文部科学省